

羽田新ルート 騒音・落下物・不動産価値下落…

日本共産党

区長が2年も前に、国に「甘受する」と伝えていた

タウンミーティング 区長発言 ポイント

- 羽田増便は、区民にデメリットしかない。飛行機が飛ばない方が一番いいわけだが、どこかを飛ばなければならぬ。国策というなら甘受する。

- その旨を国交大臣に伝え、事務次官と審議官に会って、その後どうしてもやるのなら、別の面で品川区に対しメリットの提示を求め、約束させた。



新飛行ルート計画とは
南風時の15～19時。
1分20秒に1機の間隔
で品川上空を通過。

区民をあざむき続けるのか!

区民には「了承していない」
一方、国には「甘受する」

昨年11月の区主催のタウンミーティングで区民の質問に答え、区長が、2年も前に国交省に行つて品川低空飛行の新ルートを「国策なら甘受する」と伝えていた、と語りました。

「甘受」したのは
新ルートではない
とごまかし答弁

区長は、タウンミーティングで「飛行機が飛ばない方がいいわけだが、どこかを飛ばなければならぬ。国策なら甘受する」と、明らかに新ルートについて述べていました。

ところが、3月の議会では、「甘受したのは機能強化であり、新ルートを了解したわけではない」と答弁。こんなごまかしは通用しません。

区長の資格が問われる

新ルートの「甘受」を2年間も隠し続け、国交省との交渉記録もつくり、「密室」で政治をすす

交渉記録は、
区には「不存在」

区に、国交省との交渉記録の開示を求めたのに対し、「不存在」と回答。区長が、国交省に行つて何を求め、国側が何を約束したのか、その記録がないということです。

その後の党区議団の調査で、2016年の4月と5月に国交省の事務次官と審議官に会って、区長が新ルート案への「理解」を示し、それに国側が「感謝」したと書かれた、国の記録が開示されました。重要な交渉だったのにその記録をつくらないのは、区民が行政を監視する権利を奪うものです。

羽田新ルートは、区民の生命、安全、財産にかかわる重大問題です。区民の圧倒的多数は反対です。

今、区長の資格が問われています。

「羽田新ルート」撤回へ全力!



ご意見・ご要望を
お寄せください

日本共産党
品川区議会報告

発行:日本共産党品川区議団
2018年3・4月号 発行責任者:飯沼雅子
TEL.5742-6818(直通) FAX.3778-3088
ホームページ 共産党品川 検索

区長・区議会の反対で羽田新ルートは止められる

品川区民は、国に低空飛行を中止させた実績があります

1981年、区民の世論をうけ当時の品川区長が反対を表明し、それまでの品川低空飛行を中止させ、現在の海上ルートに変更させました。

度重なる飛行機部品や氷塊の落下事故、飛行機のエンジントラブル、凄まじい騒音への恐怖。そしてマンション住民からも「不動産価値が下がるのでは」との懸念が寄せられています。

区民みんなの声を集めて、羽田新ルートに反対する新しい区政をつくりましょう。



都内14区に「反対する会」運動が広がっています

品川区 では、新ルート計画が発表されて以来3年半、「区民の会」が結成され、区議会に19本もの撤回などを求める請願が提出され、パレード、区内各地での集会などが開かれています。(共産・生活者ネット・無所属の議員が請願に賛成)

港区 では、白金や高輪など7つの町会の町会長らが、撤回をもとめる請願を区議会に提出しました。定数34の過半数に迫る共産、自民、公明などの与野党16名の議員が紹介議員になりました。

国会でも、都議会でも

日本共産党

3月2日、日本共産党の宮本徹衆院議員は、安倍首相の「地元の理解を得て」との国会演説について、「まだ地元の



宮本徹衆院議員

理解を得ていないという認識か」と質問。政務官が「引き続き住民の理解を得られるよう努力する」と答弁。住民との合意なしに「必要不可欠」と強行するのは許されないと計画中止を求めました。

羽田新ルートは、23区のうち新宿、渋谷、目黒、港、品川など16区の上空を低空で飛行するもの。



白石たみお都議

3月1日、日本共産党の白石都議(品川区選出)が代表質問。都民の安全・安心、静穏な生活を守る立場から、都が国に撤回を迫るよう求めました。被害が最も集中する品川区をはじめ住民から、騒音や落下物、墜落事故の危険性、大気汚染などの不安や不動産価値の下落などの懸念が相次いで寄せられていると指摘。